

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(横手市)

1 市の概要(人口 85,201 人)

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4 園	4 園	4 園	25 か所	0 園	0 園	14 校

その他:へき地保育所 児童館 小規模保育 事業所内2 認可外5

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。
- (2) 幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。
- (3) 小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)

令和元年度からの「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実施の成果を踏まえ、県と連携しながら幼児教育施設への巡回指導や地域での研修等を継続実施することで、教育・保育の質の向上、幼小の円滑な接続の推進への更なる充実・強化を図る。

主な内容(3年間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名を配置し、事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。
 - ・教育指導課(小学校教育指導担当課)と子育て支援課(幼児教育保育担当課)との連携体制を確保する。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、幼児教育施設における要請訪問を中心とした園内研修支援を継続的に実施する。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、市内幼児教育施設の課題に応じた研修会を開催する。
 - ・小学校区を中心とした近隣施設間で保育参観・協議への参加を進め、地域で学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実
 - ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼小連携自主事業への支援を行う。
- (5) 県との連携体制の確保
 - ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。
 - ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。

・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の課題解決や研修会運営のための情報共有を図る。	
年度別重点	
令和4年度	事業体制を見直し、地域で学び合う体制づくりの新たな課題に向けた研修会への取組、訪問支援への取組の基盤体制づくり
令和5年度	前年度事業の課題を見直し、地域の実態に合った接続推進、訪問支援への継続実施
令和6年度	2年間の事業実施の成果と課題を明らかにしつつ、より現場のニーズに合った研修、訪問支援の強化

4 令和4年度の具体

目 的	
本市において3年間実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制を構築する。	
実施内容及び実施状況(中間)	
(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」 ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化 ◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携 ◇5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通して ○5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。 ●市民福祉部幼保担当課との情報交換会を通し、より連携を深めたい。 ・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年2回の協議会開催と各団体との会議・研修会開催） ◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和4年6月17日 【会場】横手市条里南庁舎会議室 【参加者】協議会委員（10名中8名）事務局（7名） ◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和5年2月15日実施 ○今年度は、従来の一斉協議の形ではなく、2グループを編成しアドバイザーが進行役を務めて協議し合った。実践や部局の事業内容などの紹介を促す等具体的な話を引き出すことによって課題を明確にすることができ、今年度の方向性を確認できた。 ●各団体での共通理解を図ってもらえるよう、より細かに働きかけていく必要がある。 (2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」 ・教育指導課に教育・保育アドバイザー2名の継続配置 ・要請訪問及びその前後訪問による、園内研修会の持ち方、諸帳簿作成等の支援 ・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続 ・「公開保育研修会（公開保育）」の継続実施による園同士の学び合いの場づくり	

令和4年度 公開保育研修会実施記録							2023/1/17
No.	期 日	会 場 園	他園からの参加（人数）	総計	小学校の参加態勢等		
1	6月8日	こひつじ	十文字保育園（4）三重保育所（3）にしの杜保育園（2）	9	十文字小学校校長・教頭 参観・協議		
2	6月9日	大森保育園	川西保育園（3）	11	コロナ感染拡大防止のため参加見合わせ		
3	6月22日	川西保育園	大森保育園（3）	12	大森小学校教頭 保育参観中に記載した付箋を協議に提出		
4	7月20日	下鍋倉保育所	浅舞感恩講保育園（1）樽見内保育園（1）	17	浅舞小学校研究主任 保育参観・協議参加		
5	7月22日	明照保育園	土屋幼稚園（1）横手マリア園（2）	13	横手南小学校校長 保育参観		
6	8月5日	樽見内保育園	浅舞感恩講保育園（1）下鍋倉保育所（1）雄物川保育園（1）	9	浅舞小学校1年担任 保育参観・協議参加		
7	8月9日	常盤保育園	ときわベビーハウス（3）	11	横手北小学校研究主任 保育参観・協議参加		
8	9月6日	雄物川保育園	沼館保育園（1）醍醐保育園（1）	7	雄物川小学校教頭 保育参観		
9	9月16日	にしの杜保育園	十文字保育園（1）こひつじ幼稚園（1）	13	十文字小学校校長参観 教頭保育参観・協議参加		
10	10月4日	ますだ保育園	なし	16	増田小学校校長・教諭 保育参観・協議参加		
11	10月14日	たいゆう保育園	なし	6	大雄小学校教諭・校長 保育参観 校長協議参加		
12	10月24日	相愛こども園	むつみこども園（3）・乳児園（1）金沢保育園（1） 常盤保育園（1）和光子ども園（1）十文字保育園	30	横手北小学校校長・教諭保育参観 旭小学校校長保育参観		
13	11月30日	醍醐保育園	雄物川保育園（1）	16	醍醐小学校校長 保育参観・協議参加		
14	12月14日	沼館保育園	雄物川保育園（1）むつみこども園（3）	11	雄物川小学校2年担任 保育参観・協議参加		
15	12月13日	浅舞感恩講保育園	樽見内保育園（1）下鍋倉保育所（1）	11	行事の都合で参加見合わせ		
16	1月17日	吉田保育所	醍醐保育園（1）		吉田小学校		

◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（横手市）

⑥派遣目標 計 54施設／全54施設 500回	
回	・幼稚園：私立4園（61回）
数	・保育園：公立3園（46回）、私立22園（328回）
	・幼保連携型認定こども園：私立4園（58回）
	・その他の施設：（へき地保育所 園（回）児童館 か所（回）、小規模保育施設 か所（回）、 認可外保育施設7か所（60回）、事業所内保育施設 か所（回））
	・小学校：14校（175回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33園（66回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、15園（21回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、17園（17回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、2園（2回））
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、40園（550回））
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、3園（3回））
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14校（182回））
理	令和3年度の実績を踏まえ、より保育の質向上をサポートできる訪問を重視し、各園のニーズに応じ、継続し
由	た訪問をしていきたい。また、幼小接続について実際の接続組織の会議に参加し、小学校区ごとのニーズに合ったサポートをしてきた。

○事前訪問では、当日の保育参観の在り方や指導計画の見直し、参観後の園内研修の方法や内容についてアドバイザーが丁寧に関わっていた。園長・主任等との話合いもあれば、事前園内研修の形で、多くの職員が事前に研修する場合もあった。要請訪問当日も、ファシリテーターの後方支援をしたり、職員と一緒に付箋に記入したりすることもあった。それによって、各園で園内研修が盛んに進められてきており、市主催の研修会を実際に生かした研修が多数の園で行われるようになってきた。実際に保育者も研修のよさに気付いてきており、前向きな感想が聞かれる。また、参観後に担任との振り返りの時間を設定し、担任の頑

張りを認めるとともに、悩んでいた点、課題となる点について話し合う機会が得られた。研修後の園長、主任等との振り返りでは、職員の成長を価値付けていくことができ、今後の方向性を見付けたり、園全体としての質向上に広げていこうとする姿が見られてきた、また、事後訪問では、指導主事の指導事項の中で、当該園の最優先課題と思われることについて、課題の確認、今後の取組方法や手順などの支援を行うことができた。

○公開保育研修会では、参加したことによって園内環境の気付きや研修の進め方など大変勉強になったという感想を毎回聞くことができた。ほどよい緊張感の中で互いの考えを交換することのよさと横のつながりのよさを感じつつある。

●園内研修への意欲、充実感はどの園も高まってきているが、研修と実際の保育がさらに結び付くようになっていくことが次のステップとなる。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和4年5月20日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員）34名

【内容】講義「各園の特色を生かした研修計画の立案とその進め方」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川由美子

演習「具体的な計画を立案してみよう」



研修計画を実際に立てる研修

◇第2回横手市保育実践力向上研修会：令和4年9月29日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（採用2、3年目の職員）22名

【内容】講義「乳幼児の教育・保育で大切なこと」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川由美子

演習「レッツ トーク！」



◇第3回横手市保育実践力向上研修会：令和5年1月18日

互いの園のよさや悩みをトークし合う

【会場】平鹿生涯学習センター

【参加者】市内幼児教育施設職員32名

【内容】講義「望ましい園内研修を進めるためのファシリテーターの役割」

秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

○ほぼ全ての施設から参加があり、計画的に園内研修を進めていくことの大切さを感じた感想が聞かれた。また、若手職員がやはりたくさんの悩みや戸惑いを感じながら仕事に向かっている現状も分かり、継続した支援が必要であると感じた。ファシリテーター研修も2年目の継続実施により、より多くの方への理解と実践を広げることができた。

●いずれの研修にも手応えを感じてはいるが、今後の現場での生かし方等継続支援が大切だと感じる。研修計画については、もう少し早い時期であれば良かったという声もあり、どの時期にどんな研修が必要かを現場の声をもとに考えていかなければならない。また職員不足で園外研修に参加しにくい園があることも実情なので、研修ありきにならないことを心掛けていきたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・ 幼小教職員の合同研修会の継続開催

◇横手市幼小合同研修会：令和4年8月18日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】小学校教頭または教務14名 各幼児教育施設主任または副主任36名

【内容】講義「今後の幼小接続の方向性について」

秋田県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班

主任指導主事 佐藤 伸剛 氏

協議「子どもの姿から学びを」

○昨年度と対象者を変え、マネジメントの中心となる教頭、主任にしたことで、子どもの捉え方の共通理解、研修の在り方、連携組織や事業の在り方、日常の情報共有など、より具体的な話し合いをすることができた。



小学校区ごとに子どもの姿をつなぐために何ができるかを協議し合う

- ・ 小学校区での職員体験事業継続実施

◇小学校教職員参加者 27名

幼児教育施設職員 27名参加

【体験報告書より】

子どもたちは自分の身の回りのことを自分でやろうとする意欲があるので、支援する場合は声掛けをして意欲を持続させたり、できないときに手助けをしたりすることが大切だと感じた。遊びの際にも、自主的な活動を見守りつつ、友達との関わりが難しいときに声を掛けるなど、支援のタイミングを大切にするという点は小学校と共通すると思っ



小学校教師による保育体験

た。

○継続実施により、幼小の職員同士の関係が良好になってきており、その後の連携にもつながっている。各小学校区で、それぞれの実情や必要な時期に応じて計画・実施されるようになってきた。

- ・ 互いの授業参観・保育参観の継続

○各小学校区ごとの公開保育研修会、要請訪問、計画訪問を通して、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議に参加し合うことが多くなった。子どもの姿を通して話し合うことで、資質・能力に言及した意見交換も増えた。深みが増してきているように感じる。

●今年度小学校の生活科の研究校はこれまでにないほど多かった。さらに、幼児教育施設の先生方の参加がより進むよう働きかけていく必要がある。



保育参観を通して幼小の職員が子どもの学びの姿を協議し合う

- ・ 各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援

◇雄物川小学校区(5/10)

◇横手北小学校区(5/26)

◇朝倉小学校区(5/27)

◇醍醐小学校区(5/30)

◇吉田小学校区(6/10)

◇旭小学校区(6/15)

◇十文字小学校区(6/17)

◇大森小学校区(6/21)

◇浅舞小学校区(6/24)

◇大雄小学校区（6/27）

◇山内小学校区（7/1）

◇栄小学校区（7/8）

○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介していくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。

●年度末の連携委員会に参加し、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら各小学校の温度差の改善に努めていく。

（５）「県との連携体制の充実」

- ・ 県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加
- ・ 県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化
- ・ 「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施
- ・ 県要請訪問への同行訪問

○年度始めと終わりに南教育事務所指導主事と研修計画、訪問等について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができたり、来年度へつなぐことができた。また、他市町村の実践を参考にしながら、計画を改善しつつ研修、訪問を進めることができてきた。

●県の方向性をきちんと確認しつつ、市の実態に合った事業実施が進められるようにしていきたい。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題

○小学校区をベースとした公開保育研究会の開催が広がり、幼小の接続はもちろん、幼児教育施設同士の横のつながりが強くなった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が少しずつ広がってきている。

○コロナ禍で集うことが難しくなった今だからこそ、短時間、少人数で学び合う研修会をニーズに合わせて行った。研修内容によって参加対象を絞ったことで、目的が明確化し、研修会でのことをもとに園内研修が行われた。

○毎月発行の幼小連携便り「よこてのめんこ」をアドバイザーが実際に訪問して手渡しすることで、月1回は必ず訪問でき、先生方と話をすることができる。その際に、保育を見せてもらったり、園の課題について話を伺ったりすることも多いので、そこから今後の支援をつなぐことができていく。

●採用年数の少ない職員にとって、やはり施設だけでは解決できない不安や悩みを抱えていることに改めて気付くとともに、継続した関わりをしていったり、個人的な相談を受けたりしながら支えていかなければならない。それに加え、市の研修計画も今年度末の早い時期に計画を立て、現場のニーズに寄り添った研修をさらにしていきたい。

●幼小接続の体制の基盤はでき上がってきており、連携の会、職員体験事業、互いの教育・保育参観も行われてきている。今後、市として何を目指していくのかを県の方針を参考にしながらしっかりと打ち出していかなければならない。